

評価委員指摘事項への対応（平成30年12月時点）

資料①

No.	指摘事項	指摘日	計画	実績	主対応部署	実行計画No.
1	救急隊と医師との連携 ◆若手救急隊員と研修医・若手の医師とが、現場の者同士話し合える機会を設けてほしい。	H30. 2. 5	①「消防隊員との症例検討会（2か月に1回）」へ医師の参加。 ②研修医と救急隊員との親睦を目的とした懇親会の開催。	①「消防隊員との症例検討会」への参加について、若手医師へ呼びかけ。【H30.8】（医師参加実績H30.8～H30.12 2名×3回） ②ー（年度内開催予定）	医事課	1
2	開業医アンケート ◆アンケートは繰り返し実施を。	H30. 2. 5	①『津島市民病院のご案内』冊子（刷新）の訪問配布時にアンケート調査実施。 ②アンケート結果及び対応状況の公表。 ③アンケートの継続的な実施。	①『津島市民病院のご案内』冊子を刷新し訪問配布した際に、医療連携の充実を図るためのアンケート調査実施。【H30.3～4】（167件配布、92件回収、回収率55.1%） ②アンケート結果及び対応状況を、HP、開業医訪問等で報告。【H30 随時】（改善例：「予約確定方法の見直し」「予約専用電話の活用」） ③アンケートの継続実施について検討開始。【H30.12】	地域医療センター	2
3	介護福祉施設訪問 ◆紹介患者増に向けて、介護福祉施設への訪問を行い開拓することも必要。	H30. 2. 5	①介護福祉施設への訪問。【従来より】	①施設訪問の際に、施設入所者の方の急変時に紹介してもらえるよう働きかけを進めている。【従来より】（訪問実績H30.5～12：延38施設）	地域医療センター	2
4	フレイル対策 ◆今後はフレイル（虚弱）対策への取り組みも進めていただきたい。	H30. 2. 5	①口腔内環境改善への取組の検討・導入。 ②今後の診療報酬改定で新たな施設基準や算定項目が設定される場合に対する準備。	①OHAT（Oral Health Assessment Tool）の評価による口腔内環境改善を開始。【H30.10】 早期口腔機能・嚥下障害介入について、OHATを含めたフローチャートを作成。【H30.11】 認知症サポートチームの院内デイを実施【従来より】 ②情報収集。（現状、次期改定内容不明。）	診療技術局 看護局 医事課	6
5	認知症ケア加算 ◆認知症ケア加算1の取得について積極的に進めるとよい。	H30. 8. 29	①認知症ケア加算1の取得。	①認知症看護認定看護師受験許可者1名選出【H30.9】	看護局 医事課	10
6	住民との協働 ◆地域とともに病院を支えていくことは、公立病院として重要。	H30. 2. 5	①病院イベントの積極的な開催。【従来より】 ②地域イベントへの積極的な参加。【従来より】	①ふれあい病院探検ツアー【H30.8、H30.11】 病院まつり【H30.11】 ②ふじまつり「ふれあい健康チェック」【H30.5】 津島商工会議所青年部主催職場体験イベント【H30.9】 スポーツフェスティバル「ふれあい健康チェック」【H30.10】	地域医療センター	17
7	プロジェクトチーム ◆現場に詳しいものの意見を取り入れて、現場に落とす必要がある。現場の意見をしっかりと反映できるプロジェクトチームを設置するなどして問題解決を図るとよい。	H30. 8. 29	①「病院として重要な課題」、「部局を横断して検討が必要」、「期間を定めて取り組むことが必要」な場合にプロジェクトチーム設置。【従来より】	①「診療報酬改定対応PT」「医療情報システム更新PT」「病院機能評価受審PT」【H30年度実績】	全部署	19
8	常勤医師確保 ◆ただ派遣依頼するだけでなく、場合によっては寄付講座の開設や研修体制の充実を図り、医師の確保に努める方法もある。	H30. 2. 5	①指導医の育成など「教育体制の強化」。（研修医が初期研修終了後も勤務先として当院を希望するように。）	①JCEPの更新認定も含め、研修医の指導体制強化を行っている。	診療局 管理課	21
9	認定看護師育成 ◆認定看護師について、毎年2、3人は取得させていくよう病院挙げて取り組むとよい。	H30. 8. 29	①計画的な認定看護師の育成。【従来より】	①毎年、職員からの希望を募り、小論文や面接などによる選考を行った上で、1名から2名を育成。【従来より】 認知症看護認定看護師受験許可者1名選出【H30.9】	看護局	22
10	医療技術職員育成 ◆レベルの高い医療技術職員を育成するために、自己研鑽を図ることが必要。	H30. 8. 29	①学会・勉強会・研修等への参加。【従来より】	①学会・勉強会・研修等年間参加実績（自己研鑽含、院内除く）【従来より】 臨床検査室：延141回/19人、放射線室：延46回/17人 栄養管理室：延24回/4人、薬剤室：延35回/18人、 リハビリテーション室：学会発表2回以上/各職種（40人） 臨床工学技士室：延6回/3人 など	診療技術局	22
11	事務職員育成 ◆先進病院へ研修に行くなど、事務職のマネジメント能力向上が重要。	H30. 2. 5	①事務職員の研修会参加の強化。	①「プレゼンテーション研修（管理職員コース）【H30.5】」「病院管理事務部長研修【H30.7】」「タイムマネジメント研修【H30.10】」「DPC経営改善研修【H30.12】」	管理課	24
12	専任職員確保 ◆業務委託は費用対効果がよくない。中枢となる部署には専任の優れた職員の配置をするべき。	H30. 2. 5	①職員採用時における「医事業務の専門的な知識を有するプロパー職員」の採用の検討。	①病院独自採用でなく、一般事務職として有識者限定での採用を検討。2019年度に実施する採用試験から適用できるか市と調整中。	医事課	24

評価委員指摘事項への対応（平成30年12月時点）

資料①

No.	指摘事項	指摘日	計画	実績	主対応部署	実行計画No.
13	医師事務作業補助者 ◆医師が診療に集中するために、医師事務作業補助者の充足を図るとよい。 ◆医師事務作業補助体制加算40対1の取得を目指すべき。	H30.8.29	①外来業務・診療局要望の整理、医師の負担軽減となる事務の精査。 ②医師事務作業補助者のスキルアップ・最適な体制の構築。	①外来業務について検討開始。【H30.12】診療局にて医師事務補助者への要望業務の取りまとめを診療局代表者会議、診療局会議で周知、意見収集。【H30.12】 ②セミナーへの参加。（2回）【H30.6、H30.12】今後、新規業務への対応に向けた研修の要否、必要人数等の見極めを行う。	診療局 医事課	26
14	施設基準・加算 ◆新たな施設基準、加算の効果額等を院内職員にフィードバックし、士気の向上を図るべき。 ◆施設基準、加算の取得後、効果額の見える化を行うと職員のモチベーションが上がる。	H30.8.29	①医事月報データをベースとした施設基準や加算の効果額のわかりやすい提示。	①施設基準に関する電算コードの一覧の作成完了。医事月報データの整理中。年度内に院内掲示予定。【H30.12】	医事課	28
15	施設基準・加算 ◆職員の資格や施設基準は、院内入口やホームページ等でアピールするとよい。	H30.8.29	①職員資格と施設基準の掲示。	①職員資格については既存掲示事項以外の追加掲示について内容を精査中であり、年度内に掲示内容改正予定。施設基準については近日中にホームページで公開予定。【H30.12】	医事課 管理課	28
16	健康診断 ◆自院の健診、他院の健診機関から入院へつなげる受け入れの努力を。	H30.8.29	①自院健診結果の精査・状態に応じた入院勧奨。【従来より】 ②健診からの紹介患者数増加に向けての開業医訪問。【従来より】	①自院健診結果の精査、状態に応じた入院勧奨の実施。【従来より】 ②開業医訪問時に健診からの紹介について依頼。【従来より】	診療局 医事課 地域医療センター	35
17	薬価交渉 ◆薬価交渉はさらに厳しく行うこと。	H30.8.29	①薬剤師との連携強化・交渉に関する知識の向上のもとでの薬価交渉。	①2019年2月の価格交渉前に、今以上に薬剤室長と情報共有し、連携強化することを確認。【H30.11】	管理課	38
18	共同購入 ◆日本ホスピタルアライアンス等を活用して共同購入を実施してはどうか。	H30.2.5	①実施可能性の検討。（対応可能な物品、SPD業務との関連性、メリット・デメリットの精査等。）	①県内公立病院の状況調査を実施。【H30.7】（実施病院2病院）物品のメーカーや仕様などが自由に選択できない等のデメリットもあるため、当院に合った最適な物品調達を進めていくこととしたい。	管理課	39
19	医療機器購入 ◆幹部だけで決めないで、現場の職員がチェックする仕組みを考える。 ◆医療機器購入に、検査技師、放射線技師、臨床工学技士等の専門職の介入を。	H30.2.5	①年度別購入計画の策定。 ②専門職がより積極的に関わることができる体制の構築。（専門職への医療機器購入における権限の付与など。）	①各診療科・部署からの機器購入要望を基に、委員会及び経営会議で検討して年度別購入計画を策定。【H30.10】 ②備品材料選定委員会にて、購入希望機器に対する見解を述べる機会を設置するなど、委員会運営方法の見直しを検討。【H30.10】	診療局 診療技術局 管理課	43
20	病病連携 ◆すべてではなくできる範囲で、海南病院・あま市民病院と連携するとよい。	H30.2.5	①医療安全対策地域連携加算算定。（施設基準を満たす医師の確保・関係医療機関との調整など。） ②シンポジウムなどの協同事業を通じた医療機関同士の連携強化。	①平成31年4月取得予定。 ②サポーターの会「市民の集い」、海部地域の医療と健康を推進する協議会で共同開催。	医事課 地域医療センター	46
21	職員満足度 ◆質の高い医療を提供するには、職員が気持ちよく働けることが重要。現場で起きている問題、現場からの意見・不満を拾い上げるために、職員満足度調査を行うべき。	H30.2.5	①院長への意見箱等の既存機能の強化・啓発。 ②職員満足度調査実施。	①院長への意見箱の設置箇所を増やし、提言の機会の強化・啓発を実施。【H30.8、H30.12】 ②職員満足度調査を年度内に実施できるよう調整中。【H30.11】	管理課	-
22	財源 ◆近隣の地域全体で病院を支えていかなければ維持できないと思う。近隣自治体に財政支援をお願いすることも必要ではないか。	H30.2.5	①「負担金等による財政支援」以外の方法による支援の模索。 （現状、広域二次病院群輪番制負担金を年間約1,550万円受けている。（津島市支出分含む。）近隣自治体に対し、現状以上の負担金等による財政支援を求めることは、実現困難と考える。）	①愛西市巡回バスの津島市民病院への運行について協議。（継続）【H30.6、H30.8】	企画政策課 （市）	-
23	財源 ◆経営がよくなると「一般会計からの繰出金を削る」という論になりがち。改善してきたものの、一時借入金があり現金がない。繰出金の減額はしないように。	H30.8.29	①継続的な病院運営のために必要な繰出金の確保。	①一時借入金を着実に減らしていくように、市もバックアップしていく。（市長）【H30.9.7（厚生病院委員会）】 今後も1億円程度の基準外繰出しを予定。（総務部長）【H30.10.1（市町村課との打ち合わせ）】	財政課 （市） 経営企画課	-